

退所される方々へ

退所後 4 週間は以下の点に留意いただきますようお願いいたします。

- 健康状態を毎日確認してください。
 - ・毎日、体温測定を行い、発熱（37.5℃以上）の有無を確認してください。
- 一般的な衛生対策を徹底してください。
 - ・石けんやアルコール消毒液を用いて手洗いをしてください。
 - ・咳エチケット（マスク着用、ティッシュやハンカチなどを使って口や鼻をおさえる）を守ってください。
- 咳や発熱などの症状が出た場合
 - ・速やかに住所地の保健所に連絡し、その指示にしたがい、外出時には必ずマスクを着用して、必要に応じて医療機関を受診してください。保健所への連絡及び医療機関の受診にあたっては、あらかじめ新型コロナウイルス感染症で自宅療養および宿泊療養していたことを電話連絡してください。
- 新型コロナウイルス感染症から回復したあとも長期間にわたって、咳や呼吸困難などの症状が続く場合があります。（詳しくは裏面をご覧ください。）

都立・公社病院における「コロナ後遺症相談窓口」

病院名	電話番号
【都立病院】	
大塚病院	03-3941-3211（代表）
駒込病院	080-5933-4582（直通）
墨東病院 ※予約制	03-3633-6151（代表）
多摩総合医療センター	042-312-9163（直通）
【東京都保健医療公社病院】	
東部地域病院	03-5682-5111（代表）
多摩南部地域病院	042-338-5111（代表）
大久保病院	03-5273-7711（代表）
多摩北部医療センター	042-306-3161（直通）

※ 受付時間等はwebサイトでご確認ください →



●後遺症について

東京 i CDC 専門家ボードでは、後遺症に関して、次のような調査結果が報告されています。

○ 後遺症の内容等

発症後、2か月を経過しても、せき、味覚障害、嗅覚障害、呼吸困難、けん怠感など、何らかの症状を抱えている方が、半数近くいらっしゃいます。また、発症後約30日から脱毛の症状が出現する方もいます。

○ 後遺症患者の年代属性

20歳・30歳代でも後遺症を有する割合は高いなど、どの年代でも後遺症は認められており、年代にかかわらず後遺症の症状を患う可能性があります。

○ 後遺症の原因

ウイルスによる過剰な炎症（サイトカインストーム）、活動性のウイルスそのものによる障害、不十分な抗体による免疫応答などが原因として考えられていますが、明確にはなっていません。

※ 「(第31回)東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議資料(令和3年2月4日)「新型コロナウイルス感染症 レジストリを活用した研究、後遺症に関する疫学調査」より引用

【参考】海外の後遺症事例について

海外においても、後遺症の事例が報告されていますが、日本と同様に、それぞれの症状とCOVID-19との因果関係は不明で、用語についても統一されていません。

(イタリア)

143人の患者調査では、回復後(発症から平均2カ月後)に87%が何らかの症状を訴えており、特に倦怠感や呼吸困難の頻度が高くなっています。その他、関節痛、胸痛、咳嗽、嗅覚障害、目や口の乾燥、鼻炎、結膜充血、味覚障害、頭痛、喀痰、食欲不振、咽頭痛、めまい、筋肉痛、下痢などの症状がみられるようです。また、32%の患者で1~2つの症状があり、55%の患者で3つ以上の症状がみられます。

(アメリカ)

米国での電話調査では、270人の患者のうち、65%が検査日から中央値7日で普段の健康状態に復帰し、35%が診断から2~3週間経過後も「普段の健康状態に戻っていない」と回答しています。また、高齢者や基礎疾患のある人で症状が長期化しやすい傾向にありました。

(フランス)

電話調査では、120人の回復者(発症から約110日後)のうち、約30%に記憶障害、睡眠障害、集中力低下などの症状がみられました。

※ 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き・第4.2版」より引用